

令和3年度

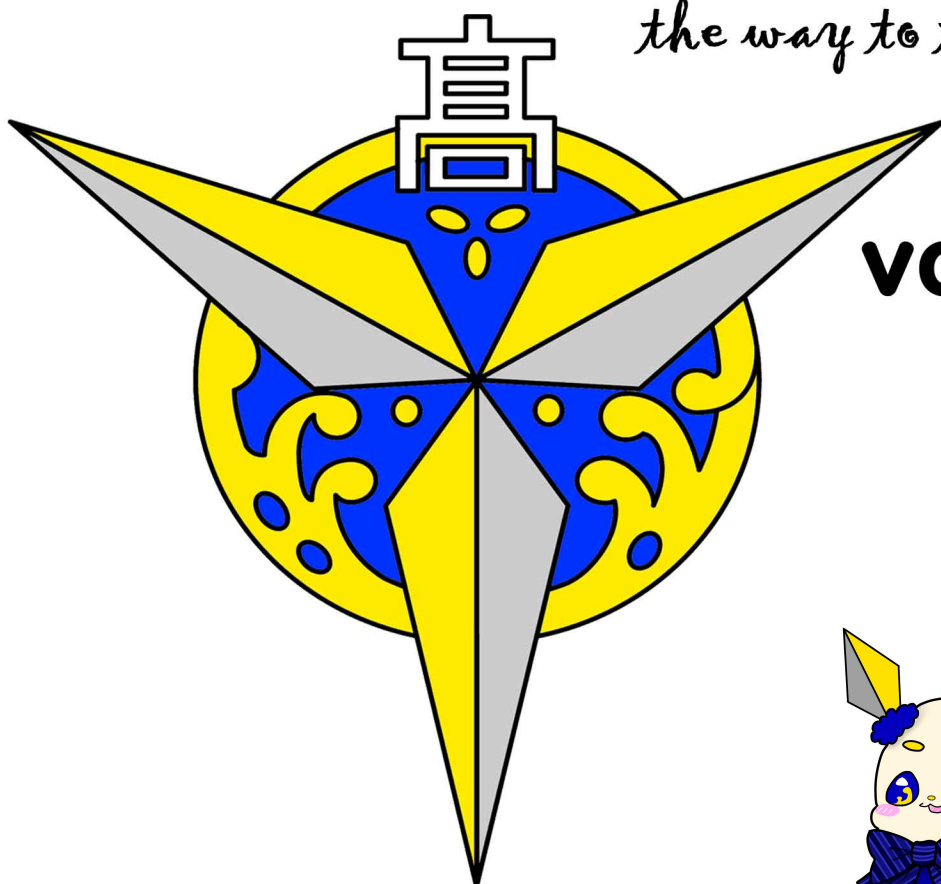
地域との協働による高等学校教育改革推進事業

地域魅力化型 研究報告書 第3年次

未来の道を切り拓け

飛べ鵬よ未来に向かって

the way to the future



vol. 3



宮崎県立宮崎南高等学校

産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発

- 課題**
- ・ 若年層の県外流失の増加
 - ・ 郷土に魅力を感じていない生徒の増加
 - ・ 自分の可能性に気づいていない生徒の増加

開発の目標

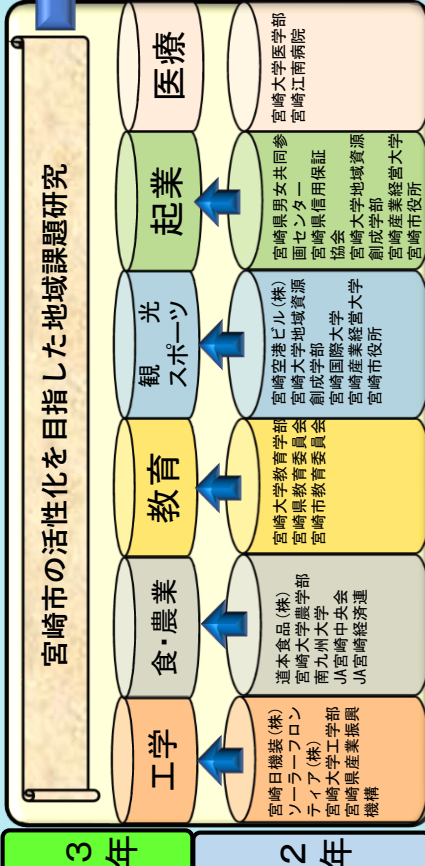
- ・ 身近な地域社会の問題を自分のこととして捉え、新たな解決策を地域に寄り添いながら提案、実践できる人材の育成
- ・ 宮崎市内の高校にも普及させ、地元活性化に人材を発掘できるコンソーシアムを構築

授業

- A 知識・技能
- B 思考力・判断力・表現力等
- C 学びに向かう力・人間性等

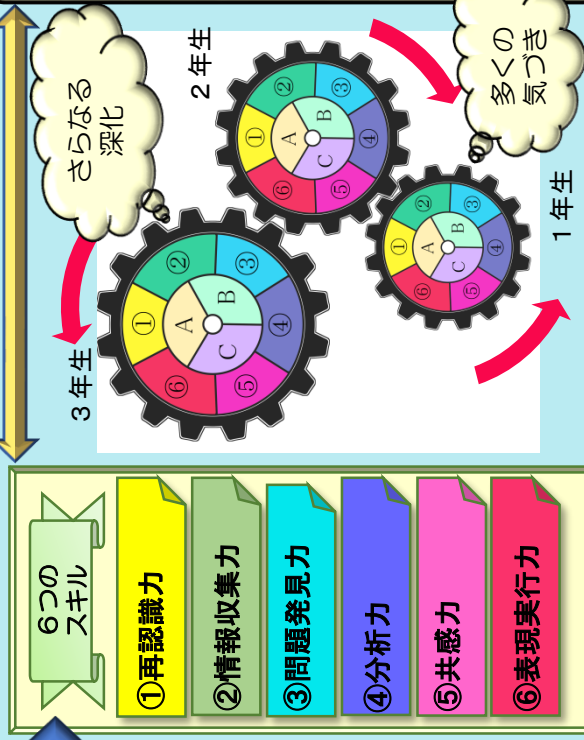
研究概要

授業及び課題研究等を通して生徒自身が自分の可能性等に気づき、地域の活性化を目指す

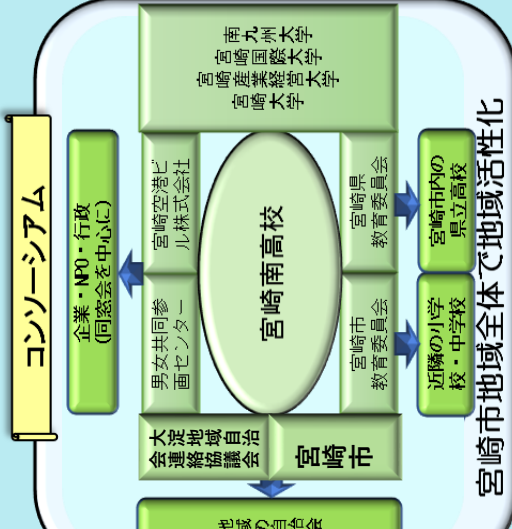
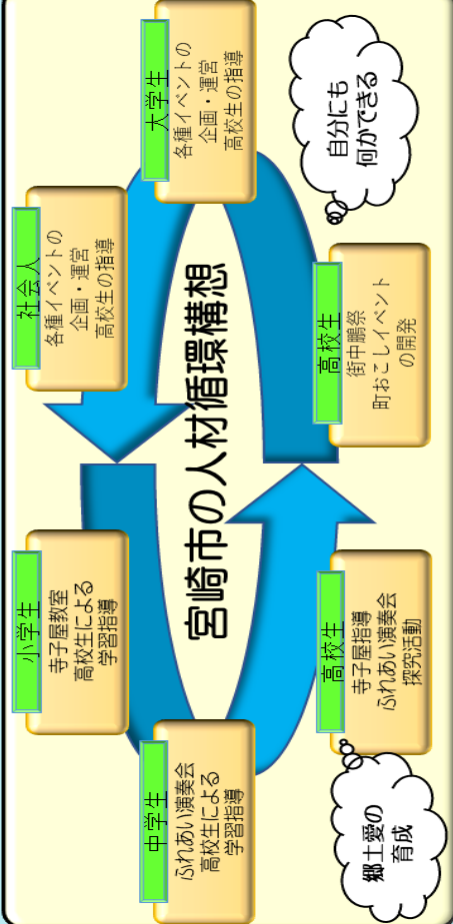


宮崎市の現状・魅力を知る

- 「みやざき産業人材プログラム」(みやざきCOC+)の視聴
- 本校OBの社長等による講話(鵬ドリカム講座)
- 大学の先生等による講義
- 本校OBが所属する職場におけるインターンシップ等



地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成



宮崎市地域全体で地域活性化



宮崎市感謝状贈呈の様子



MSEC 発表の様子



宮崎市出前講座の様子



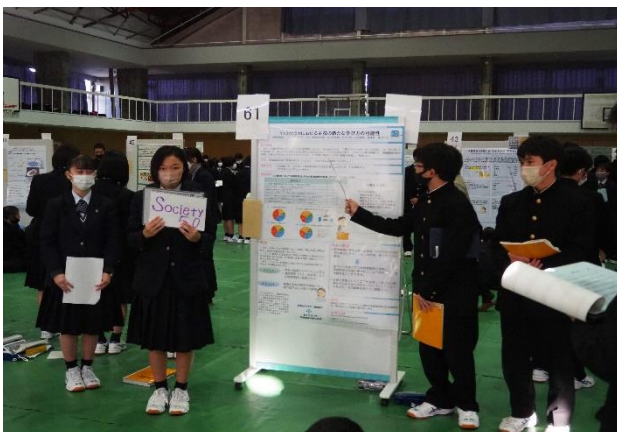
宮崎大学出前講座の様子



生徒研究発表大会の様子①



生徒研究発表大会の様子②



生徒研究発表大会の様子③



生徒研究発表大会の表彰の様子



宮崎県ゆたかさ指標授業の様子



SDG s 双六体験の様子



鵬イノベーションコンテスト講義の様子①



鵬イノベーションコンテスト講義の様子②



鵬イノベーションコンテスト発表の様子①



鵬イノベーションコンテスト発表の様子②



鵬イノベーションコンテスト審査の様子



鵬イノベーションコンテスト閉会式の様子

はじめに

指定事業が3年目の最終年度を迎えました。指定を受ける前の年に高校教育課の担当課長補佐として、当時の内田校長先生や担当の先生とともに文部科学省で行われた事業計画ヒアリングに参加したことを覚えています。地域との協働によるこの事業には本県から五ヶ瀬中等教育学校、飯野高校そして本校の3校がエントリーしていました。学校ごとに聴き取りが行われ、管理機関の代表として、それぞれの学校への支援や関わりを説明し、質問に答えるのが私の役目でした。

会場には、文科省の担当者2名と外部審査員が3名ほどいたと記憶していますが、本校の聴き取りの時に、自分の思い込みが強かったのかもしれませんが「また宮崎ですか」という雰囲気を感じました。学校と管理機関の説明後の質疑で、審査員の一人から「3校申請していますね」「中山間地域でもないのに宮崎市内の大規模普通科でそもそも地域との協働について研究する必要があるのですか」と言われました。それに対して「県庁所在地にある大規模普通科高校で申請しているところは多くないでしょう。ですから研究する意味があると考えます」と応えました。今、本校の職員として事業に関わることができて大変うれしく思っています。

高校が地域の自治体、大学、産業界との協働によりコンソーシアムを構築するなかで、人材育成のためのよりよい教育プログラムづくりに挑戦することを通して多くの収穫を得ることができたと思います。計画内容や活動に充てられる時間に違いはあるものの、普通科・フロンティア科の両学科ともに学校全体で、時には地域をフィールドとし地域の大人を「先生」として、探究的な学びを進めることができました。生徒たちがあらためて郷土を知り、郷土愛が生まれ、将来、直接・間接に本県を支える人材に成長してくれることを期待しています。また、伴走者として生徒とともに学ぶ職員集団にも意識の変化が起きていると感じます。

これらのことが可能となったのは、大学や民間企業、行政機関の皆様、運営指導委員の皆様、鵬イノベーションコンテストや生徒課題研究発表会の審査員の皆様など、多くの方々のご支援・ご指導のおかげです。本当にありがとうございました。

本年度に策定されたスクール・ミッションとの親和性が高い本事業の目標や取組内容を、事業指定終了後も持続可能なものにするために、新たな仕組み作りを行う予定です。鵬同窓会をはじめ保護者、地域住民の方々との連携・協力のもと、既存のコンソーシアムの再構築を行い、本校が特色と魅力ある地域に開かれた普通科高校として更に発展していくことを目指します。

目次

巻頭言

生徒発表の様子（研究開発Ⅰ，研究開発Ⅱ，研究開発Ⅲ）

1	令和3年度研究開発実施状況報告書（別紙様式3）	1
2	令和3年度目標設定シート	9
3	実施内容報告	
3-1	研究開発Ⅰ	
3-1-1	研究開発Ⅰの意義	11
3-1-2	各項目実施内容	13
3-2	研究開発Ⅱ	
3-2-1	研究開発Ⅱの意義	38
3-2-2	各項目実施内容	42
3-3	研究開発Ⅲ	
3-3-1	研究開発Ⅲの意義	55
3-3-2	各項目の実施内容	56
4	その他活動	
4-1	令和3年度地域連携企画一覧	
4-1-1	宮崎市役所への壁画寄贈	68
4-1-2	宮崎県総合政策部総合政策課との連携事業	69
4-2	生徒課題研究実践例	70
4-3	探究図書部会実施記録	70
5	関係資料	
5-1	校内組織図	72
5-2	教育課程表	73
5-3	新聞掲載一覧	75
5-4	季刊誌掲載一覧	78
6	添付資料	
添付資料①	研究開発Ⅱ 生徒発表一覧	80
添付資料②	1学年鵬イノベーションコンテスト DP 評価表	82
添付資料③	2学年課題兼研究発表 DP 評価表	83
添付資料④	アンケート結果 郷土に関する意識調査（3カ年分）	84
添付資料⑤	アンケート結果 自己分析アンケート（3カ年分）	92
7	成果概要図	104

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 宮崎市橘通東1丁目9番10号
管理機関名 宮崎県教育委員会
代表者名 黒木 淳一郎

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を下記のとおり報告します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 宮崎県立宮崎南高等学校
学校長名 富高 啓順
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発

4 研究開発概要

本研究では、地域に根差す人材の育成として身につけさせたい6つのスキルを「再認識力」、「情報収集力」、「問題発見力」、「分析力」、「共感力」、「表現実行力」とし、総合的な探究（学習）の時間と各教科科目において育成する。

研究開発Ⅰ 「地域の現状・魅力を知る地域力」の育成

地域のことを学ぶ「地域学Ⅰ～Ⅱ」において地域の魅力、地域資源を再認識し、「鵬イノベーションコンテスト」において地域の可能性や課題を考える力を養う教育プログラム

研究開発Ⅱ 「地域資源の新しい価値を見出す力(イノベーション力)」の育成

地域資源の新しい価値や課題解決の方法を地域課題研究から探究し、地域創生の使命感を持たせる教育プログラム

研究開発Ⅲ 「地域の価値を発信するための行動力・実践力」の育成

課題研究を通して得られた成果を、地元の企業・大学・行政に提案し、自己実現の場として捉える生徒を育てる研究プログラム

各教科における取組：授業において新学習指導要領の資質・能力の三つの柱（以下三つの柱）を本校が生徒に身につけさせたい6つのスキルをもとに育成する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
矢野 健二	宮崎国際大学・地域連携センター長・大学部長	
徳地 慎二	宮崎産業経営大学・高大連携センター長・法学部教授	
青山 桂子	宮崎市青少年育成連合会・事務局長	
嶋末 武	有限会社嶋末塗装店・代表取締役	

7 高等学校との地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
宮崎市	市長 戸敷 正
宮崎県教育委員会	教育長 黒木 淳一郎
宮崎市教育委員会	教育長 西田 幸一郎
宮崎大学	宮崎大学学長 池ノ上 克
宮崎空港ビル株式会社	代表取締役社長 高屋 靖夫
宮崎県男女共同参画センター	所長 山田 成美
宮崎市大淀地域自治会連絡協議会	会長 中川 雄一
道本食品株式会社	代表取締役社長 道本 英之

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	添田 佳伸	宮崎大学教育学部・教授	都度依頼し 謝礼支払い
海外交流アドバイザー	無し	無し	無し
地域協働学習支援員	相田慎一郎	企業組合ライオン堂・代表理事	都度依頼し 来校

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				○							○	
コンソーシアム会議				○					○			○
MSEC連絡協議会		○					○			○		

(2) 実績の説明

- I 管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成、カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

① 運営指導委員会の活動日程・活動内容について

活動日程	活動内容
令和3年7月26日 第1回 運営指導委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容の説明と本年度の取り組み計画について説明。 ・昨年度からの改善点を報告 ・探究学習と学力向上の関係性についての協議 ・オンラインにおける活動について協議
令和4年2月17日 第2回 運営指導委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降の取組について指導助言 ・地域に寄り添った体制の重要性について確認 ・生徒の探究活動の向上について協議 ・来年度以降のサポートを確約

② コンソーシアム会議の活動日程・内容について

活動日程	活動内容
令和3年4月15日 宮崎大学担当者との会議	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施の課題研究についての内容確認 ・運営体制、連絡体制の構築及び確認 ・課題研究班の構成（人員・テーマ選定、指導内容など）
令和3年4月27日 宮崎市役所との企画会議	<p>宮崎市役所との今年度事業企画会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施企画の提案、内容確認、総合的な探究の時間の計画 連携内容確認
令和3年6月2日 宮崎県総合政策課との協議	<p>「宮崎の新しいゆたかさ指標」を用いた地域活性化政策の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新しいゆたかさ指標」と本校実施の「宮崎南×SDGs」についての確認
令和3年7月8日 第1回コンソーシアム 企画運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施事業内容の説明、総合的な探究の時間日程説明、取組計画についての協議 ・連携大学、企業との内容確認
令和3年12月22日 第2回コンソーシアム 企画運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度事業の報告、課題研究大会及び鹏イノベーションコンテストの内容説明 ・来年度へ向けての連携体制の検討
令和4年3月23日 第3回コンソーシアム 企画運営委員会	<p>第3回会合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けて連携体制決定事項の確認

③ カリキュラム開発専門家の活動日程・内容について

活動日程	活動内容
令和3年 4月（第1回）	昨年度の反省と今年度のカリキュラムマネジメントについての目標・計画・方法・内容等についての説明及び検討
令和3年 7月（第2回）	6月までの取組についての意見交換会 ・昨年度からのブラッシュアップした点に対する協議
令和3年12月（第3回）	1年鹏イノベーションコンテストと2年課題研究発表会において、その成果から今後の課題について協議
令和4年 3月（第4回）	次年度のカリキュラム計画についての指導助言

④ 地域協働学習実施支援員の活動日程・内容について

日程	内容
令和3年 7月	<p>キャリア教育に関する打合会出席</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度活動計画についての協議、鹏ドリカム講座の講師選定に関する協議役割分担割り振り
令和3年 8月	<p>鹏ドリカム講座の開催についての協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施形態（オンラインでの実施について） ・同窓会との連携
令和3年 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・開講希望調査結果報告 ・実施場所、担当教員の振り分け ・講座受講生徒への指導
令和3年10月	令和3年度 鹏ドリカム講座実施
令和3年12月	来年度以降の取組について協議
令和4年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の取組について同窓会による協議 ・来年度以降のサポート体制についての協議

II 管理機関による主体的な取り組みについて（コンソーシアムによる取組も含め記入すること）

- コロナ禍において、宮崎市と生徒が企画したイベントが中止となる中、計画した内容が反映できるようにCM作成や宮崎市へ絵画寄贈などのサポートを実施した。
- 探究活動において経済的視点を養うため、金融関係の企業に対し、生徒への指導助言を依頼した。
- 指定校において実施された成果報告会（第1学年：鹏イノベーションコンテスト、第2学年：生徒研究発表会）では、当日の運営や生徒への指導助言等においてコンソーシアム組織員による全面的な支援を行った。
- ポスター作成能力向上の為に指導者、生徒向けポスター作成研修会を実施した。
- MSEC（宮崎SDGs教育コンソーシアム）では3回の協議会を実施、他校職員との意見交換、研修等を行った。

III 国費に上乗せした独自の支援や取組の実施 無し

IV 継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮 等 無し

V 高等学校と地域との協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

機関名	次年度	機関名	次年度
宮崎市	未定	宮崎県男女共同参画センター	継続
宮崎県教育委員会	継続	道本食品株式会社	継続
宮崎市教育委員会	未定	宮崎産業経営大学	継続
宮崎大学	継続	宮崎国際大学	継続
宮崎空港ビル株式会社	未定	宮崎市大淀地域自治会連絡協議会	継続

VI 事業終了後の自走を見据えた取り組みについて

MSEC（宮崎SDGs教育コンソーシアム）の加盟校として支援

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

研究開発	業務項目	実施日程（ ）は予定											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
I	地域学Ⅰ		3回	3回	2回								
	地域学Ⅱ							1回					
	進路探究							5回					
	鹏イノベーションコンテスト				1回		2回	4回	1回	2回	2回	1回	
	鹏イノベーションコンテスト 研究発表会									1回			
	次年度課題研究に向け										2回		
II	地域課題研究計画		3回	3回	2回								
	計画発表				1回								
	地域課題研究					3回	2回	3回	1回				
	中間発表							1回					
	起業講座							1回					
	進路探究								2回				

	プレゼン資料作成							2回	2回				
	研究発表会								1回				
Ⅲ	成果発信			1回									(1回)
	成果発進						4回	2回	2回				
その他の活動	探究推進委員会	4回	3回	1回	2回		2回	2回	1回	3回	1回	1回	(2回)
	地域課題研究職員研修	3回	4回	3回	1回	1回		1回	3回				
	コンソーシアム企画運営委員会				1回					1回			(1回)
	運営指導委員会				1回							1回	

(2) 実績の説明

I 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

学年	研究開発	題目	実施内容
1	I	地域学Ⅰ (宮崎南×SDGs)	世界、日本そして地域の現状をSDGsを通して学ぶプログラム。コンソーシアムの助言の下、本校職員が指導した。
		地域学Ⅱ	宮崎の企業・行政の活躍を本校同窓会(鵬同窓会)を通じて紹介した。
		進路探究	生徒に進学先としてどのような学部学科があるか紹介した。
		鵬イノベーションコンテスト	各地域の企業、行政、団体からのテーマを元に課題解決に取り組んだ。
		鵬イノベーションコンテスト 研究発表会	各地域の企業、行政、団体からのテーマを元に課題解決に取り組んだ内容を、各団体の代表者に向けて発表した。
		次年度に向けて	来年度実施する課題研究について事前学習を行った。
2	II	地域課題研究計画	地域課題研究の実施に向けて年間計画を立てた。
		計画発表	有識者からの意見をもとに、立てた研究計画の軌道修正を行った。
		地域課題研究	計画発表による修正を経て、研究開発を行った。
		中間発表	有識者からの意見をもとに、研究の軌道修正を行った。
		起業講座	宮崎大学が実施するビジネスプランコンテストに参加(オンライン)し、新たにビジネスに関する視点を学んだ。
		進路探究	自らの探究活動と進路との関係について深化させた。
		プレゼン資料作成	事前に職員、生徒研修会を実施した後、プレゼンテーション、ポスター制作等を行った。
		研究発表会	ポスターセッションによる研究成果の発表を行った。
3	III	成果発信	本県で実施しているMSECフォーラムに本校より、日本語部門に11班、英語部門に1班参加した。英語部門においては見事1位を獲得した。
		成果発進	課題研究で学んだことを自分たちの進路に活かした。
その他の活動	その他の活動	探究図書委員会	地域魅力化型開発の総務として各教科、各部会に企画を提案し実施に向けてコンソーシアムとの協議、連携を図った。
		地域課題研究職員研修	本校の探究活動について1回。地域学Ⅰ(宮崎南×SDGs)についての7回。鵬イノベーションコンテストの研修1回。2年生徒研究発表概要について3回。2年計画発表について1回。2年中間発表について1回。ポスター研修について2回。
		コンソーシアム企画運営委員会、運営指導委員会は9(2)①、②参照	

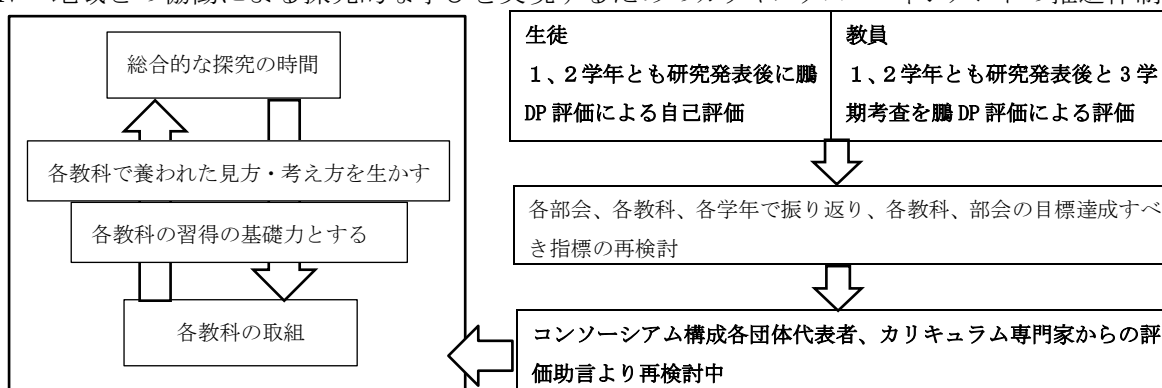
II 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

学年・学科 位置付ける教科等	1 学年		2 学年	
	普通科	フロンティア科	普通科	フロンティア科
総合的な探究（学習）の時間	1	2	1	3
探究基礎情報	2	2	0	0

III 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ教科等横断的な学習とする取組について

- 6つのスキルを基にした共通表評価基準の改善
- 共通評価基準を基にした各教科の指導に対する研修。

IV 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制



V 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

	地域探究推進委員（9人）	全職員
役割	<ul style="list-style-type: none"> ①カリキュラムの開発の協議 ②地域に根差す人材育成としての企画を提案し各部会、各教科に実行を依頼 ③本研究の企画、改善をコンソーシアム構成各団体代表者と協議 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域探究推進委員からの企画を部会、教科、学年で協議、実行可能案を作成し実行する。 ②地域探究推進部の提案について、それぞれの視点から評価改善を提案
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム開発専門家より開発アドバイス ・カリキュラム開発のために地域創生研究先進校の視察や有識者による助言をもらい全職員にノウハウを普及 ・加配が認められた場合、加配教員による補助 ・地域探究推進部増設のため各校務分掌を再編し、校内体制を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム開発専門家によるカリキュラム開発の研修の実施 ・それぞれの企画に対する成果を職員会議で検討し、多方面から生徒指導ができる体制を確立 ・放課後30分の指導時間を確保する。

VI カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて 都度依頼（活動内容は9（2）③、④参照）

VII 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

進捗管理、計画・方法	実行時期
改善方策の執行管理システムとして、PDCAサイクルに基づく進捗管理の仕組みを位置づけ、持続的なサイクルを通じた成果の追究を行う。また、CHECK（評価）については、「表1本校が身に付けさせたい6つのスキル」と研究開発中の教育指標を用い、各研究開発の題目において達成すべき目標を数値化することで達成の確認を行う。	探究図書委員会において週に1回実施した。また、学期に一度探究図書部において改善を検討した。

VIII カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- 今年度実施した3回のコンソーシアム会議において、カリキュラム開発を行った。
- 昨年度までのカリキュラムに関する内容の検討や改善について協議を行った。

IX 運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

- 運営指導委員会での指導助言の他、第2学年生徒研究発表会において審査員として参加頂き、指導助言を頂いた。

X 類型毎の趣旨に応じた取組について 特になし

XI 成果の普及方法・実績について

○成果の普及方法について

- ・令和元年に学校HPとは別に「宮崎南高等学校地域協働事業」のHPを開設。
- ・鵬イノベーションコンテスト及び生徒課題研究発表大会の案内配布、他校への支援。
- ・みやざきのボランティア・市民活動を応援しSDGsを推進する情報誌「ミヤザキ大作戦」春号～冬号4季連載

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

- ① 目標設定シートにおいて掲げた10項目のうち、目標を達成できたのは2項目であった。達成できていない項目も含め、今後も目標達成に向けて実施内容を改善していかなければならない。特に1のe「郷土への愛着や誇りを持てる生徒の割合」が低下傾向にある。今年度1学年より地域学Iを変更した。その成果が来年度の結果で見られるので来年度の結果によっては地域学Iの更なる改善が必要と考える。

<添付資料>目標設定シート

- ② 1学年「鵬イノベーションコンテスト」研究発表会後の外部審査員による鵬DP評価と2学年「生徒研究発表大会」研究発表会後の外部審査員による鵬DP評価について評価は4段階（S：4、A：3、B：2、C：1）で評価し、数値が高いほど高評価とする。

<1学年>

	再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力	採用したい度
R1	2.1	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0	
R2	3.0	2.8	2.6	2.8	2.8	2.8	
R3	2.8	2.7	2.7	2.9	2.8	2.8	3.1

<2学年>

	再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力
R1	2.30	2.50	2.30	2.30	2.50	2.40
R2	2.56	2.56	2.57	2.42	2.46	2.52
R3	2.59	2.65	2.57	2.51	2.57	2.69

上記の結果より、1学年は令和元年度から2年度においてすべての項目において外部評価が昨年度より上昇していたが令和3年度にかけては大きな伸びは見られなかった。2学年は、外部評価は年々上昇した。生徒の成長が見られる結果となった。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

I 本事業に関する管理機関の課題や改善点について

- ① 次年度より、全生徒が授業において個人端末を使用するようになる。ICT環境が大きく改善されることになるが、生徒だけでなく職員に対しても探究活動におけるICT機器の効果的な活用法などの研修を実施、充実させて行く必要があると考える。
- ② 3年間を通して、探究活動のノウハウを職員が蓄積できた。しかしながら、職員の負担は増加したように感じられる。職員の負担軽減につながるようなプログラムの開発ができるよう、今後もさらにブラッシュアップできるよう支援の必要がある。
- ③ 探究活動が、生徒の進路実現にどの程度の効果的であるか、影響があるかを測る評価法の確立が難しかった。この活動によって、生徒が目標とする進路を、どの程度達成できているか数値化できる方法を検討する。

II 研究開発にかかる課題や改善点について

学年	研究開発	題目	課題	改善点
1	I	地域学Ⅰ、Ⅱ、 鵬イノベーション研究発表会は本年度通りの実施を計画中		
		鵬イノベーションコンテスト	次年度より情報の授業との連携時間が短縮予定であるため、時間を確保をしなければならない。	次年度より生徒の個人端末を授業で導入により、総合的な探究の時間においても端末を利用した活動が可能となる。このことにより、多方面での時間が短縮できると考える。
2	II	計画発表、中間発表、起業講座、進路探究、プレゼン資料作成は本年度通りの実施を計画中		
		地域課題研究計画	地域課題研究を中心に取り組んだため、グローバルな視点を養う機会が乏しかった。自分たちの地域と国内外の他の地域との違いについても比較し考える視点を養っていかなければならない。	地域の価値が日本、そして世界にどのように役立っていくのか考えさせる課題研究を実施する。
		地域課題研究	本年度は、昨年度の反省を活かし夏季休業中に1日探究活動の日程をいれたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、校内での活動に留まった。	生徒の個人端末を授業で導入することに伴い、多くの地域の人々との探究活動がオンラインで容易に行うことができるようになる。そのためオンライン活用についての指導を充実させる。
		研究発表会	①昨年は審査方法に課題が残り、発表会が長引いたが、今年度は審査方法を電子システム化した。そのため、非常にスムーズであった。 ②一斉発表のため、生徒の声が聞き取り辛いとの意見が多く見られた。	①今年度の審査方法を継続していく。 ②分散開催などを計画する。
3	III	成果発信	昨年度の課題であった学校間の交流は改善できたが、外部が開催している発表会への出品数をどう増加させるかが課題である。	目標とする大会を決めて取り組むなどの改善を図る。
その他活動		探究推進委員会、地域課題研究職員研修は本年度通りの実施を計画中。		

III 自走に向けた方向性について

第2回コンソーシアム会議、第2回運営指導委員会にてほとんどの機関から次年度以降も支援を頂くことを確約できた。また、資金についても宮崎県立宮崎南高等学校同窓会からの補助を受けることにより、次年度以降も本年度と変わらぬ実施体制が確立された。これらのことより、次年度以降も更なるブラッシュアップが期待できる。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	0985-44-2601
氏名	重永 信祐	FAX	0985-26-0721
職名	指導主事	e-mail	signaga-nobuhiro@pref.miyazaki.lg.jp

【別紙様式7】

ふりがな	みやざきけんりつみやざきみなみこうとうがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	宮崎県立宮崎南高等学校		

2021年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
他者と協働し地域資源の新しい価値を見出すことができた第三者に評価された生徒の割合						単位： %
a	本事業対象生徒：		6.8	9	14.9	80
	本事業対象生徒以外：		-	-	-	
目標設定の考え方：取り組んだ課題研究の内容が地域資源の新しい価値を見出す内容になっているかを外部有識者により評価						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
課題研究が進学の選択に影響を与えた生徒の割合						単位： %
b	本事業対象生徒：		84.5	61.2	89.6	100
	本事業対象生徒以外：		-	-	-	
目標設定の考え方：進路決定に影響を与えた生徒を増加させ、地元への定着を図る。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
大学卒業後、地元就職を希望する生徒の割合						単位： %
c	本事業対象生徒：		29.2	32.5	28.7	50
	本事業対象生徒以外：		-	25.3	-	
目標設定の考え方：進路決定に影響を与えた生徒を増加させ、地元への定着を図る。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
校外の課題研究発表大会へ出品した研究発表数(出品数, 入賞数)						単位： 件
d	本事業対象生徒：		(0,0)	(6,0)	(17,1)	(50, 5)
	本事業対象生徒以外：		-	-	-	
目標設定の考え方：課題研究等の成果を各内外の大会に積極的に応募し、上位入賞を果たす。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
郷土への愛着や誇りを持てる生徒の割合						単位： %
e	本事業対象生徒：		76.1	63	59.1	100
	本事業対象生徒以外：		-	-	-	
目標設定の考え方：生徒の郷土貢献の意識を高める。						

- ① aの数値について課題研究発表大会における鵬DP評価において再認識力の平均点が3.5以上の生徒の割合
- ② bの数値については2学年自己分析アンケートの設問9において「できる」「まあまあできる」「ややできる」と回答した生徒の割合
- ③ cについては郷土に関する意識調査の設問12において県内就職を希望した生徒の割合
- ④ eについては自己分析アンケート設問1～5において、「できる」「まあまあできる」「ややできる」と回答した生徒の割合

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位：%
自分が宮崎のために貢献できると感じた生徒の割合						
a		59.4	81	80.4	80.2	100
目標設定の考え方:卒業までに全員が地域課題研究に取組、自分の可能性と使命感を育成する。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位：回
先進校としての発表回数						
b	0	0	0	3	2	2
目標設定の考え方:研究指定2年目から研究成果を発表する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						単位：校
協働で取り組めた宮崎市内の高校数						
c	0	0	0	5	5	16
目標設定の考え方:地域課題研究を他校と連携して行うことで活動の普及を図る						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位：件
市の施策に提言できたアイデア数						
a	0	0	18	22	22	10
目標設定の考え方:研究成果の実現を図る						
(その他本構想における取組の具体的指標)						単位：回
校外の団体と連携して取り組めたイベント数						
b	0	0	3	3	9	10
目標設定の考え方:コンソーシアム加入団体数を増加させ、人材育成の地盤を固める						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	1,159	1,115	1,105	1,079	1,064
本事業対象生徒数			717	1079	1064
本事業対象外生徒数			388	0	0

3-1 研究開発 I

3-1-1 研究開発の意義

(1) 研究背景

本県の合計特殊出生率は全国平均より 0.37 高いが、生産年齢人口の割合は全国ワースト 5 位（総務省統計局 H29）である。この要因として若者の県外流出が挙げられる。県庁所在地である宮崎市も例外ではない。本校は宮崎市中心部に位置する進学校であるが、本校が平成 30 年度に独自で行った「生徒の郷土に対する意識調査」では、将来的に宮崎県外での就職を考える生徒は全体の 40% であり、その理由として「宮崎市に魅力を感じない」が 42% と最も高い。郷土に対する知識（観光地・偉人・特産物）はどれも 90% 以上と高いが「具体的に説明できるか」という問いに対しては、いずれも 75% 前後に落ち込んでいる。

また、企業に対しての認知は 30% と非常に低く、宮崎市での将来像を描けない状況にあると考える。このことから、郷土の魅力、可能性を再認識させ、地域資源の新たな価値を見出し、郷土への愛着や誇りを持てる人材を育成することが、早急に解決すべき課題と考え以下の仮説を基に研究に取り組んだ。

(2) 仮説

宮崎市の魅力・可能性を知ることで郷土への愛着や誇りを高め、郷土の新しい価値を見出すことができる。この根拠として「生徒の郷土に対する意識調査」により、郷土の観光地や特産物などを知っているが具体的に説明できる生徒は少なかったことが挙げられる。当たり前にあるものの価値を再認識することで、興味喚起につながると予想できる。

(3) 昨年度の考察

〈成果〉

○昨年度実施した郷土に関する意識調査では、一昨年同様、研究開発を深める度に知識が増えていることが分かる。また、県外への進学先を希望している生徒のうち、「1 度は県外に出てみたいから」という回答をした生徒が減少したことから、県外への進学希望は、県外への興味本位ではなく県内の進学先との比較の上でなされていると考えられる。さらに、就職については県内に興味がある企業があるという生徒や県内就職希望者が増加していることや、自己分析アンケートにおいても、研究開発を深めるごとに肯定的な意見が増えているところで、研究開発 I の成果は大きく見えたといえる。

○一昨年度の実施例を参考に、年間指導計画とワークシートを早期に作成・配布することができた。さらに、前年に指導経験がある教員の指導があったことで、鵬イノベーションコンテストの審査員による他者評価経験が全項目において昨年度より高い結果となった。

〈課題〉

○研究開発を深めるごとに郷土に関する知識を身につけているが、具体的に特色や魅力を説明できないという生徒は依然と多い。鵬イノベーションコンテストでも既存のも

のについて把握できておらず、提案が独自性に欠けていたり、現実味の無いものになったりしている班もあった。そのため、郷土に対する知識理解を深める、情報収集力を高めることができるような指導計画が必要である。

- 指導教員に探究推進部の意図が十分に伝わっておらず、指導内容の食い違いや温度差が見られることもあった。よって、令和3年度は、指導教員に対して説明だけで無く研修の実施が必要だと考える。シミュレーションをすることによって指導のイメージが湧き、積極的に指導に携わることができると思う。
- 新型コロナウイルス感染症対策、学年全体がインターネットを主とした情報検索を行うため、ハード面の環境を整えていく必要がある。

(4) 実施項目

研究項目	期待される効果
地域学Ⅰ	SDGsへの関心と、地域のSDGsへの関わり方・地域の魅力・課題を知ることで地域への興味関心を高める。
地域学Ⅱ	地域企業・自治体を知ることで地域企業・自治体への興味関心を高める。
鵬イノベーションコンテスト	地域の企業、行政、団体等の課題に取り組むことにより、地域の課題を深く掘り下げて考えることができる。
鵬イノベーションコンテスト発表会	地域の企業、行政、団体等から指導をいただくことにより、新たな視点を養うことができる。また、発表を通して表現力を養うことができる。
課題研究計画作成	セルフマネジメント力を育成できる。

(5) 成果と課題

〈成果〉

- 地域学Ⅰの講義を、探究図書部が用意したパワーポイントや資料で行ってもらうことで指導内容にムラが出ず、統一した指導を行うことができた。
- 今年度BYODが採用されたことで、インターネットを主軸にした情報検索において、ハード面の強化を行うことができた。
- 鵬イノベーションコンテストを行うに際して、指導をいただく企業や行政、団体の方々に講義をいただいた。それにより、地域が抱える問題点やその問題にどうアプローチをするかを全員に前提知識として共有することができた。
- 今年度から配布した「外部団体への質問、インタビュー依頼用紙」を利用し、多数の班が外部団体と連絡を直接取り合い、密な関係作りを行うことができた。
- SDGsの内容を地域学Ⅰの中で講義したことで、鵬イノベーションコンテストにてSDGsを絡めた内容の提案を行う班が複数あった。地域の課題をグローバルな

視点からも考えることができる力の涵養につながった。

- 前年度同様、県外への進学先を希望している生徒のうち、「県内の大学、専門学校等に魅力を感じない」、「1度は県外に出てみたいから」という回答をした生徒が減少したことから、県外への進学希望は、県外への興味本位ではなく県内の進学先との比較の上でなされていると考えられる。自己分析アンケートにおいても、研究開発を深めるごとに肯定的な意見が増えているところで、研究開発 I の成果は大きく見えたといえる。

〈課題〉

- 今年度から地域学 I の内容をSDGs 中心に据えた講義に変えたことで、本県に関する知識の補充を行うことができなかった。これは、今年度実施したアンケートにおいて、回を重ねるごとに「郷土が誇れる観光地を知っている」「郷土の特産物を知っている」を「知らない」と回答する生徒が増加していることで確認することができる。SDGs の知識を講義する中で、本県の観光地や特産物販売、SDGs に取り組む本県の人物紹介を来年度から取り込んでいくことで改善を図ることとする。
- 来年度より夏期に2日間の鹏イノベーションコンテストの準備期間を設けることとなった。今まで研究開発 I において、まとまった時間設定をして実施していないので、他校の指導を参考にしながら計画改善を行っていく必要がある。

3-1-2 各項目の実施内容

(1) 地域学 I

①実施内容

宮崎南×SDGs をテーマに置き、講義、演習を行う。地域の魅力を知り、課題を解決する上で、SDGs の概念は切り離せないものであり、世界の課題は日本の課題、日本の課題は地方の課題であるというつながりに着目させる。また、図書館にSDGs コーナーと称してワークショップを行う空間を作成し、授業外においてもSDGs の取り組みを意識させた。

月	日	講義・演習内容
5	7	探究図書部からの全体説明
	21	SDGs について、国連の動画とSDGs 双六を用いて課題を知る
	28	過去の正解と未来の世界 MDGs からの流れを学習し、今後の世界の未来を予想する
6	11	世界の子どもたちのストーリーからSDGs について考える①
	18	世界の子どもたちのストーリーからSDGs について考える②

	24	日本、宮崎の現状について考える
7	2	宮崎の魅力を知ろう
	9	宮崎の課題を知ろう 宮崎のSDG s
	26	トリコン説明会

②各講義・演習の内容



▲SDG s 双六の様子



▲宮崎県の課題を整理する



▲日本が達成しているSDG s を学ぶ



▲宮崎県のSDG s 達成状況を分析し発表

▼授業スライド（7月2日）

Tanto

総合的な探究の時間
SDGs ～日本の現状～
(7月2日)

Tanto

本時の目的

- 宮崎県のゆたかさ指標を知る。
- 宮崎県のSDG s の現状を分析する。

問題です

都道府県「幸福度」ランキングにおいて
宮崎県は何位でしょう

正解 1位 (2年連続)



順位	昨年度	都道府県	幸福度
1	1	宮崎県	74.0
2	5	沖縄県	72.2
3	18	大分県	70.3
4	3	福井県	70.1
5	7	石川県	70.0
6	26	鳥取県	69.8
7	13	京都府	68.8

宮崎県の特徴

悩みがない：11.6% (全国最下位)

→悩んでいる人が多い

「孤独である」：1.7% (44位)

「バワハラを受けている」1.6% (47位)

→人間関係が穏やか

【分析】

人と人とのつながりがマイナス面を十分にカバーしてくれており、それが幸福度につながっているのではないか



宮崎県の強み弱みとは？

幸福度ランキング1位

でも県外流出者増

宮崎県の良いところ、課題をみつけるために



県はゆたかさ指標を作成

宮崎県のゆたかさ指標について



宮崎県のゆたかさ指標について



宮崎県のゆたかさ指標について

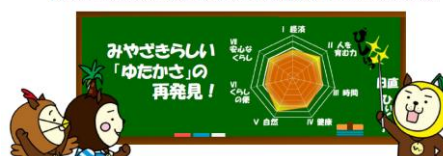


宮崎県のゆたかさ指標について



宮崎県のゆたかさ指標について

「ゆたかさ指標」の作成



宮崎県のSDG s 達成状況分析 (ワークプリント⑩)

(1) ゆたかさ指標 I~VIIの①~⑤がSDG s 何番にあてはまるか振り分けましょう

注1: 一つの項目に何個でもSDG s を当てはめてもOK

注2: SDG s が当てはまらない項目があってもOK

(例)

ゆたかさ指標	偏差値	当てはまるSDG s 番号 (何個でもOK)
① 地域経済が活発である	38.7	1, 8, 9, 1.7
経済の② 雇用が安定している	51.9	
I ゆたかさ ③ 所得が高い	36.5	8, 1.0

宮崎県のゆたかさ指標について

ちなみに宮崎県のゆたかさ指標は全国7位です。

今日は、このゆたかさ指標を使って宮崎県のSDG s の分析を行います。

班を作りましょう

※この班は次週も形成します。

班番号

自分の番号

黒板

8-③	8-①	4-③	4-①	1-③	1-①
8-④	8-②	4-④	4-②	1-④	1-②
9-③	9-①	5-③	5-①	2-③	2-①
9-④	9-②	5-④	5-②	2-④	2-②
10-③	10-①	6-③	6-①	3-③	3-①
10-④	10-②	6-④	6-②	3-④	3-②
		7-③	7-①		
		7-④	7-②		

宮崎県のSDG s 達成状況分析 (ワークプリント⑩)

(2) SDG s 番号にゆたかさ指標とその偏差値を振り分けましょう。自分なり達成できたか分析しましょう。

注1: SDG s の番号にあてはまる指標がないときは「なし」と書いてOK

注2: 偏差値だけで分析しない。ウェビング法など用いたり、いろんな角度から分析してみよう (分析落書き用紙にいろいろ書いて分析しよう)。

(例)

SDG s 番号	当てはまるゆたかさ指標の番号と偏差値	達成度 (Check)
1	Iの① (38.7), IIIの③ (49.1)	△
2	なし	
-		

自分なりに分析した結果を書く。達成できる: ○ できていない: △

宮崎県のゆたかさ指標について

以下の7項目がゆたかさ指標となります。この中で、全国1位があります。それはどれでしょう。

ゆたかさ	都道府県順位
I 経済のゆたかさ	
II 人を育む力のゆたかさ	
III 時間のゆたかさ	
IV 健康のゆたかさ	
V 自然のゆたかさ	
VI ぐらしの便のゆたかさ	
VII 安心なくらしのゆたかさ	

宮崎県のSDG s 達成状況分析 (ワークプリント⑩)

(3) グループワーク 班を形成しましょう

お互いの分析結果を話し合っ

班としての分析を一つにまとめましょう

宮崎県のSDG s 達成状況分析 (ワークプリント⑩)

(4) ワークプリント⑩の内容と分析落書き用紙の分析をワークプリント⑪のプレゼン用紙にまとめましょう。

注1: 班で考えて、良い案を採用しながらつくります。

注2: 見る人のことを考えて作成しましょう。

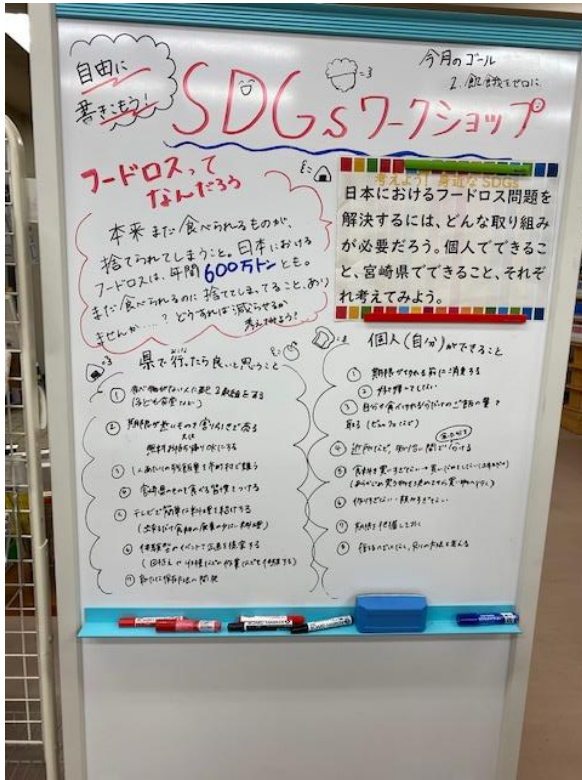
字の大きさや、表の挿入など、工夫しましょう。

作成が終わった班はプレゼンの練習をしましょう

※発表時間は2分です

本日のまとめはありません。時間の限り練習をして、次回のプレゼンに備えましょう。

▼図書館で実施したSDGs ワークショップコーナーの様子



▼図書館におけるSDGs 関連書籍を集めたコーナー



(2) 鵬ドリカム講座

① 実施内容

実際に働いておられる保護者や卒業生の方々に、
現場での喜びやご苦勞、その職業に就くための進路や
資格などについて講演をしてもらう。

担当教員：齋藤慶太郎

指導時間：令和3年10月16日土曜日

- 9：50～10：30 鵬ドリカム講座①（講話＋質疑）
- 10：30～10：45 感想文記入、提出
- 10：45～10：55 休憩・生徒移動
- 11：00～11：40 鵬ドリカム講座②（講話＋質疑）
- 11：40～11：55 感想文記入、提出



鵬ドリカム講座の様子①



鵬ドリカム講座の様子②



鵬ドリカム講座の様子③

② 依頼講師一覧

NO	講座名	講師名	回生	勤務先
1	地方公務員Ⅰ【消防】	村社 拓郎	46	北消防署東分署第一隊救急係主任
2	地方公務員Ⅱ【市役所】	阿部 顕人	43	宮崎県国民健康保険課
3	地方公務員Ⅲ【県庁】	横川 智弘	41	商工観光労働部 オールみやざき 営業課
4	警察官	小倉 弘之	33	宮崎県警 宮崎北警察署刑事二課 刑事二課長
5	弁護士	谷口 純一	33	宮崎くすの樹法律事務所
6	公認会計士・税理士	三浦 洋司	31	三浦会計事務所
7	社会福祉士	成川 茉由	45	宮崎福祉医療カレッジ専門学校
8	小学校教諭	田ノ上 久美子	21	宮崎市立那珂小学校
9	中学校教諭	阪本 成志	41	日南市立細田中学校
10	特別支援教諭	細山田 龍	47	宮崎県立日南くろしお支援学校
11	養護教諭	高野 桃子	49	日南市立油津小学校
12	保育士	池田 絢音	55	青島幼稚園
13	医師	中村 禎志	14	潤和会記念病院
14	歯科医師 <small>(歯科技工士・歯科衛生士)</small>	稲田 裕仁	28	稲田歯科医院
15	獣医師	山本 香織	33	延岡保健所
16	薬剤師	高村 徳人	15	九州保健福祉大学 薬学部
17	看護師	宮内 静香	22	県立宮崎病院 4階東病棟
	看護師	但馬 りか	22	県立宮崎病院 4階東病棟
18	作業療法士	廣瀬 東洋城	33	学校法人宮崎南学園宮崎保健福祉 専門学校
19	理学療法士	杉田 大知	51	いしだ整形外科などフリーランス
20	管理栄養士	矢野 智美	52	宮崎県学校給食会総務課普及検査係
21	建築士・土木・インフラ	松竹 昭彦	12	松竹建築設計事務所
22	銀行・金融	鵜木 信一郎	45	宮崎太陽銀行 人事部主任
23	報道	甲斐 延明	36	宮崎日日新聞社
24	放送	横山 由美	17	フリーアナウンサー
25	ITビジネス	長友 賢治	26	宮崎電子機器
26	パイロット	小泉 雅彦	12	独立行政法人 航空大学校
27	旅行業	池畑 孝治	13	社団法人日本旅行業協会理事事務 局長
28	CA・航空関係	谷口 尚子	49	日本航空(株)宮崎支店

29	経営者・起業家	加納 ひろみ	15	KIGURUMI.BIZ 代表取締役
30	システムエンジニア	山根 淳一	28	株式会社マウント・ルート代表取締役
31	国際関係	津田 夏葵	46	イギリスサセックス大学国際教育 開発コース

(3) 鵬イノベーションコンテスト (以下トリコン)

① 実施内容

内 容：宮崎市内の企業・団体・行政からテーマをいただく。高校生の視点からアイデアを出し、答えのない問いへチャレンジする。各クラス9班（9分野）に分かれて実施。

担当教員：1学年担任、副担任、情報教科担任

指導時間：総合的な探究の時間 探究基礎情報



トリコン授業の様子①



トリコン授業の様子②

② 協力団体とテーマ一覧

分野	協力団体	テーマ	関連 SDGs
宮崎の食	宮崎市支え合いの地域づくりネットワーク	「食を通して、人と人がつながりをつくる居場所を提案せよ」	1,12
宮崎の農業	長友みかん農園	「せとか」の果実を使った加工品（6次化）のなかで「ドライフルーツ」「コンフィチュール」「パウダー」の中から一つ以上を選び販路拡大のための提案（販売促進のための使用法）をせよ。	8
宮崎の起業	宮崎太陽キャピタル株式会社	宮崎県において、起業したら成功すると思う業種・業態とその理由について考察せよ。	8,9,11,14

宮崎の行政	宮崎市役所 企画政策課	今後人口減少社会を迎える宮崎市が、「住み続けられるまち」になるための取り組みを検討せよ。	11
宮崎のスポーツ	宮崎市役所 スポーツランド推進課	宮崎県初のJリーグクラブ「テゲバジャーロ宮崎」の認知度を更に向上させるためのクラブが行う地域貢献活動や地域との連携活動を提案せよ	8
宮崎の医療	宮崎江南病院	コロナ禍の中、子供から大人まで楽しく参加できる健康増進イベントを提案せよ	3
宮崎の観光	宮崎商工会議所	伝統文化を守り続け、宮崎市を盛り上げていくプランを提案せよ	12
宮崎の教育	宮崎県教育委員会	宮崎の公立学校をPRするための方法を提案せよ	4
宮崎のサイエンス	宮崎ガス株式会社	宮崎県のエネルギー構成とCO2排出状況を分析し、宮崎の特徴を生かした「創エネ」「省エネ」策を提案せよ	13,7,11

③ 総合的な探究の時間実施内容一覧（普通科）

7月26日	説明会。テーマ発表、班発表。調査することを決定。
9月10日	各団体様からの講義
9月17日	テーマの現状と課題を整理する。具体的提案の方向性を決める。
10月1日	具体的提案の意見を出す。
10月8日	提案内容を固める。中間発表スライド作成
10月15日	中間発表原稿作成、役割分担(司会、時計)を決める。中間発表リハーサル
10月20日	トリコン：中間発表
11月26日	中間発表を振り返り、スライドの展開を考案する。
12月3日	スライドの見直し、発表準備
12月10日	分野別発表リハーサル
12月17日	トリコン分野別発表

(4) 鵬イノベーションコンテスト発表会（12月17日（金））

① 分野別発表実施内容

内 容：外部審査員と校内職員による審査を行い、鵬 DP 評価表（添付資料②）を用いて評価し、1位を決定する。

担当職員：1学年団 指導時間：以下に示す。

開会式（各教室）	13:20～13:25	講評	15:10～15:20
発表前半（5班）	13:25～14:15	協議	15:20～15:35
休憩	14:15～14:30	表彰・閉会式	15:50～16:20
発表後半（4班）	14:30～15:10		

② 審査員一覧

分野	団体	代表者
食	宮崎市支え合いの地域づくりネットワーク	黒木 淳子
		片野坂 千鶴子
		高橋 理恵
		池田 和浩
農	長友みかん農園	長友 亨治
起業	株式会社宮崎太陽キャピタル	野村 公治
		檜柳 孝丞
行政	宮崎市企画政策課	青木 幸弘
スポーツ	宮崎市スポーツランド推進課	甲斐 寛智
		荻原 旦土
	テゲバジャーロ宮崎	代 健司
		石井 健太
		松村 様
		落合 様
藤原 優希		
医療	宮崎江南病院	告吉 ゆかり
観光	宮崎商工会議所	時任 将彦
		前畑 智之
		児玉 貴之
		宮戸 崇仁
教育	宮崎県教育委員会	重永 信祐
		内田 信昭
サイエンス	宮崎ガス株式会社	杉田 隆文
		長友 純也

③ 分野別発表結果一覧

分野	食	農業	医療	スポーツ	企業	観光	サイエンス	行政	教育
受賞クラス	1 E	1 C	1 E	1 H	1 H	1 H	1 E	1 E	1 H

④ 総合発表

内 容：分野別1位（全9班）をさらに選考会で3班に絞り込んで総合発表を行い、総合1位を決定。

担当職員：1学年団

指導時間：2月4日（金） 6限目（総合的な探究の時間）

⑤ 選考会結果一覧

順位	クラス	分野
1位	1 H	スポーツ
2位	1 H	企業
3位	1 E	医療

⑥ 生徒感想

宮崎の医療班 1年E級 兵頭 伽音

トリコンを通して私は、プレゼンをする力がついたと思います。トリコンをするまではあまりプレゼンをする機会がなかったので、わかりやすく伝えるにはどうしたらよいか考えることが多かったです。先生方からアドバイスをいただき、班のみんなと試行錯誤して発表の時に相手の目を見て相づちをすることを意識しました。なので良いプレゼンができたと思います。

しかしその一方、トリコンを行う上で、プレゼン発表の工夫が私には足りなかったと感じました。他の班を見ると、かけ言葉など上手く使っているなと思いました。来年は今回提案したことを実際に行い、そこで行ったことや学んだことなどをプレゼンしていけたらと思います。

このトリコンは私が大人になってからも必要な能力を高めることのできる取り組みにだと思えます。今後の人生でもこのようなプレゼンを行う機会があると思うので、学んだことを生かして生きたいと思えます。

宮崎のスポーツ班 1年H級 森重 雄太

トリコンを終えて

最初は課題を提示されてはいたけれど何をすればいいのか全くわからず1からはじめなければならず大変でした。最初は案をみんな積極的にだしてたけれどなかなか一つにまとまらずかなり焦っていた

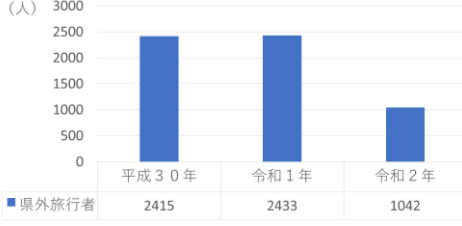
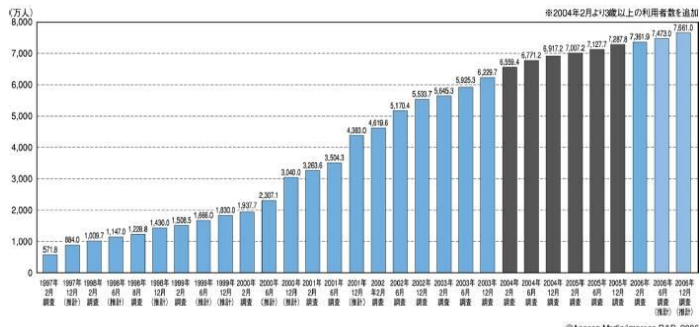
この活動を通して学んだことは、ふたつあり最初に宮崎県について知れたことです。自分は最初テゲバジャーロ宮崎のことを全く知りませんでした。しかしこの活動を通してテゲバジャーロ宮崎について知れただけでなく宮崎県について深く知れたので嬉しかった。つぎに、中学校ではなかったデータを元にした根拠を自分たちはより深く出来て良かったと思う。

自分たちの班は、ひとりひとりが自分のすべきことを考えて動いていたのでスムーズにものが進んでひとりひとりの目線から最後まで改善点を出しあえてたのでこの結果に繋がったと思う。この活動でスライドの作り方、データの集め方、発表の仕方を身につけることができ今後の活動に活かしていきたい。

宮崎の行政班 1年H級 中村 咲千

私は今回のトリコンを通して、たくさんのことを学びました。起業班の提案内容は「～宮崎県において、起業したら成功すると思う業種・業態とその理由について提案せよ～」でした。私達起業班は他の分野と違って具体的な課題が提示されなかったうえ、起業という分野は高校生の私達とは馴染みがなかったので幅広い範囲から課題を決定するのが一番苦労しました。先生方からアドバイスをいただいたり、班員とたくさん話し合いをしたりしながら改善と工夫を重ね完成することができました。提案ばかりをかかず、根拠や計算もかく工夫ができました。また、最近身近になってきたSDGsにつなげることで環境についても考えることができました。質疑応答では、私達の考えた提案内容であるオンラインツアーについてたくさん情報を集め、質問を事前に考える対策をしました。今回のトリコンで仲間と協力することの大切さや相手に伝える力などを学ぶことができました。また、宮崎についても深く考えるいい経験になりました。優勝することができ、いい思い出になったと思います。

⑦ 生徒活動報告書（総合入賞3位までを掲載）

鵬イノベーションコンテスト活動論文																							
1年	H級 代表生徒氏名 中村 咲千																						
活動分野	宮崎の（ 起業 ）																						
テーマ	宮崎県において、起業したら成功すると思う業種・業態を提案せよ																						
<p>私たちはこのテーマにおける課題は、コロナ禍により宮崎県の観光客数が減少していること、宮崎の魅力が他県に伝わっていないことだと考える。その理由は、図1の宮崎市観光統計のデータから、コロナ禍により宮崎への県外観光客数が2倍近く減っているということが読み取れるからである。また、図2の日本国内のインターネット利用者数推移から、近年インターネット利用者が増加していることがわかる。</p> <p>よって、この課題を解決するために コロナ禍により需要が高まったオンラインを活用した、宮崎オンラインツアーを提案する。この提案は、起業者が誰でも利用できる宮崎オンラインツアーを、お客様の希望に合わせてツアープランを計画し、多くの人に宮崎の魅力を知ってもらい第一歩を提供することが目的である。オンラインツアーの利点として移動が省かれることでSDGsへつながる排気ガス削減や、お年寄りや体の不自由な方といった、外出が難しいひとでも離れて住む家族と一緒に旅行が楽しめることである。</p> <p>この提案において工夫したところは、他の会社との違いをつけることや利用客を増やすことを目的とした、VR ゴーグル、ツアー中に楽しめる体験キットの利用や実際の宮崎旅行の値引きサービス など である。</p> <p>今後の展望として、ツアー料金や値引きサービスの値段の詳細の改善が必要と考えられる。</p> <p>この提案が実施されることによって、宮崎県の観光客の減少や宮崎の魅力が伝わっていないことについての課題解決が図られると考える。</p>																							
<p>(図1) 宮崎市観光統計</p>  <table border="1"> <caption>宮崎市観光統計 (県外旅行者)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>人数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年</td> <td>2415</td> </tr> <tr> <td>令和1年</td> <td>2433</td> </tr> <tr> <td>令和2年</td> <td>1042</td> </tr> </tbody> </table>		年	人数 (人)	平成30年	2415	令和1年	2433	令和2年	1042														
年	人数 (人)																						
平成30年	2415																						
令和1年	2433																						
令和2年	1042																						
<p>(図2) 日本国内のインターネット利用者数推移</p> <p>資料1-4-1 日本国内のインターネット利用者数推移 [1997年-2006年]</p>  <table border="1"> <caption>日本国内のインターネット利用者数推移 (万人)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>利用者数 (万人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1997</td><td>574</td></tr> <tr><td>1998</td><td>884</td></tr> <tr><td>1999</td><td>1,097</td></tr> <tr><td>2000</td><td>1,147</td></tr> <tr><td>2001</td><td>1,238</td></tr> <tr><td>2002</td><td>1,430</td></tr> <tr><td>2003</td><td>1,582</td></tr> <tr><td>2004</td><td>1,880</td></tr> <tr><td>2005</td><td>1,830</td></tr> <tr><td>2006</td><td>2,307</td></tr> </tbody> </table> <p>注: 2004年2月より13歳以上の利用者数を追加</p>		年	利用者数 (万人)	1997	574	1998	884	1999	1,097	2000	1,147	2001	1,238	2002	1,430	2003	1,582	2004	1,880	2005	1,830	2006	2,307
年	利用者数 (万人)																						
1997	574																						
1998	884																						
1999	1,097																						
2000	1,147																						
2001	1,238																						
2002	1,430																						
2003	1,582																						
2004	1,880																						
2005	1,830																						
2006	2,307																						

<p>鵬イノベーションコンテスト活動論文</p>	
1年	H級 代表生徒氏名 森重 雄太
活動分野	宮崎の（スポーツ）
テーマ	宮崎県初のJリーグクラブ「テゲバジャーロ宮崎」の認知度を更に向上させるためのクラブが行う地域貢献活動や地域との連携活動を提案せよ。
<p>私たちはこのテーマにおける課題はj2昇格条件である平均観客数が2000人を超えていない（グラフ①）ことだと考える。その理由は、僕達のクラスで行った「認知度」「行ったことがあるか」のアンケート（グラフ②③）のデータより認知度が高い割に観客席が少ないということがわかるからである。</p> <p>よってこの課題を解決するため「テゲフリ」を提案する。</p> <p>この提案は、主に家族連れをターゲットにしている。理由としては、テゲバジャーロ宮崎のハイライト動画をすべて見て中高年の方が多いことに気がついた。そこでリピート率の高い大人、イベントが好きな子供つまり家族連れをターゲットにすることにした。</p> <p>具体的内容は2つある。1つ目の内容はフリーマーケットだ。詳細は、テゲバジャーロ宮崎のホーム戦の日にスタジアム、その周辺でフリーマーケットを開催する。選手とのふれあいができるように選手が限定商品などを販売するブースを設置。地域の方同士での交流が盛んになるように地域の方に来店してもらおう。更により多くの方に来店してもらおうのとより試合を見てもらうために出店者のかたにペアの自由席のチケットをプレゼントする。このイベントの長所はスタジアムに人を直接呼べ、スタジアムの場所を把握してもらえることだ。さらにこの取組は、使わなくなった物を売り再び使用してもらえるためSDGs 12番の作る責任使う責任に貢献している。</p> <p>2つ目の内容はフリーターゲットを1つ目の内容と同時に開催することだ。理由は、1つ目の内容だけでは僕達がターゲットにしている家族連れの子どもたちを満足させられないと考えたからだ。詳細はフリーターゲットで出した得点に応じて限定商品を得ることができるようにする。さらに選手を身近に感じてもらうためにフリーターゲットを選手が直接指導してもらえるようにする。</p> <p>移動手段は、マイクロバスを手配することにした。理由は宮崎市内から車で40分もかかる上クラスでアンケート（グラフ④）よりホームスタジアムの場所をほとんどの人が知らないということがわかった。さらに以前には臨時列車があったがそれでは停車駅が少なく駅から約15分かかってしまうからだ。この利点は直接スタジアムに行く、人を多く呼べる無料でいけることがあげられる。</p> <p>宣伝方法は、主に小中学校へのチラシへの配布を考えています。理由は必ず多く人の目に触れる事ができること。さらに僕達のターゲットにしている家族連れの方に知ってもらえるからである。さらにボランティア活動やイベントでチラシの配布も行おうと考えている。</p> <p>この提案において工夫したところは、直接スタジアムに人を呼ぶことができるようにした点。SDGsに関連付けて考えられた点。選手とのふれあいが可能にできるようにした点が挙げられる。</p> <p>今後の展望として実際に開催可能な提案にしていかなければならないことが考えられるため、細かい費用の計算やフリーターゲット的、景品を考えること。細かい日時、場所を考えること。さらに今回できなかったSNSを使った宣伝方法を考えることが必要と考えられる。</p>	

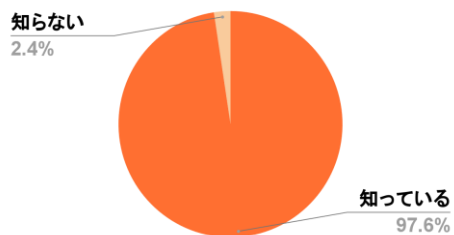
この提案が実施されることによって、テゲバジャーロ宮崎の観客数、認知度が増加しテゲバジャーロ宮崎の選手が地域に貢献できると考える。

グラフ①



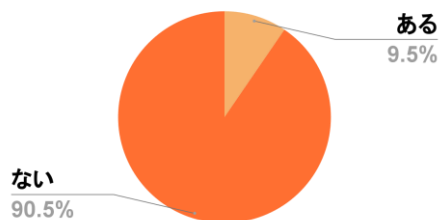
グラフ②

テゲバジャーロ宮崎の認知度(1H)



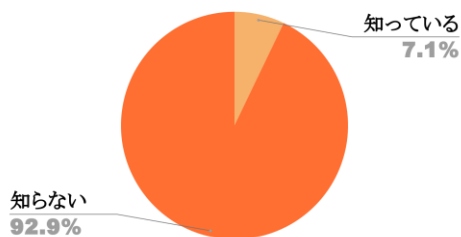
グラフ③

試合を見に行ったことがあるか



グラフ④

ホームスタジアムの場所を知っているか



<p>鵬イノベーションコンテスト活動論文</p>
<p>1年 E級 代表生徒氏名 兵頭 伽音</p>
<p>活動分野 宮崎の（ 医療 ）</p>
<p>テーマ コロナ禍の中、子供から大人まで楽しく参加できる健康増進イベントを提案せよ</p>
<p>私たちはこのテーマにおける課題は運動不足とマンネリ化だと考える。 株式会社ストライドが行った運動意識の調査で、運動不足を感じた人が過半数を占めている事がわかったからだ。また、この結果からコロナ禍により家にいる時間が増え、ストレスが増えたこともかんがえられる。</p> <p>よってこの課題を解決するため『宝探し』を提案する。この提案では、小学生とその保護者を対象として大坪池公園で宝探しをする。まず、宝を探し、見つけてお題を実施する。クリアしたらスタンプを押す。最後に景品をもらうという流れで行う。コロナ対策を徹底する。</p> <p>この提案において工夫したところは、道具を使わずに身近で開催できるということ。今後の展望としてこの目標歩数では高齢者が達成できないことが考えられるため、年代別に歩数を設定するという改善が必要と考えられる。</p> <p>この提案が実施されることによって、運動不足と家でのマンネリ化の課題解決が図られると考える</p>